

短歌

丹 四郎選

春雜詠

(賞)

うちつとく日和よろしみ山狭の苗代小田に種子落しみゆ
新芽ふく匂ひかそけき白樺に大き月暈かゝりたるかも

秀 逸

そよくと揺れてかそけき櫻木の花ただしろし曇り日のもと
沼の面にはつはつ見ゆる若葦をうちかぶせつつ寄する風波

北相馬、高野 倉持 公太郎

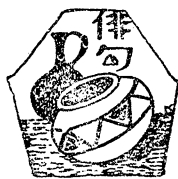
試みに植ゑし水田の菜種花今を盛りに咲き匂ふなり
男子らと俵作りをうち競ふいそはら女ひたにさほへる

行方、武田 瑠 草風

(農業祭)

百姓になりて肥えたるわが友の心安けくなりけるらし

北海道、上磯 石渡 星華



前田 猶春選

題『春風』『椿』

○ 東茨城郡小松村 園部 保彦
○ 春風の松しつかなる峠茶屋
○ 那珂郡野口村 西村 小雨
○ 水遠く白帆悠々と春の風
○ 新治郡眞鍋町 中山 晚香
○ 夕照や椿おちたる水の面
○ 宮本 吐月
○ ゆらくと廣告球や春の風
○ 眞柄 月川
○ 同
○ 縣道のほとりの小田の落椿
○ 北相馬郡高野村 倉持 香邨
○ せいらぎに落ちたまりたる椿かな
○ 鹿島郡豊郷村 林 喜平
○ 春風の窓にかけほす着物かな
○ 行方郡手賀村 會根 健而

思ふどちうちつれ來たる麥畑に立毛調べの日は暮れにけり
菅の根の春日のどけき田に畑に鈴菜の花のいま盛りなり
松並木ほのみえそめし曉の閑けき岡に雉子のなくなり

行方、立花 今泉 安之助

足らぬ身のたらぬがまゝに野に出てて獨り黙々接木して居り
歛持てるころ勢いか清々しき朝の野良にたちいでにけり

久慈、金砂 鈴木 音之介
北相馬、大野 吉田 秋清

身に觸るゝほどよき風を感じつゝ花時過ぎし梅園を歩めり

鳴き勢ふ蛙のころは街中のわが家の店にときに聞え來

統計短歌 丹 四郎選

次回、課題……『夏雜詠』『青田』各題五首以内

宛名 茨城縣廳内統計協會

締切 六月二十日

蘭植うる春のそよ風あたりけり 高野 芳水
○ 那珂郡隣郷村
山寺の門高々と椿かな 青木 斗南
○ 同
紅椿見ほれて憩ふ僧ひとり 吉田 逸桑
○ 稲敷
春風や歩けばひかる女下駄 武内 涼風
○ 同 浮島村
春風の耕土はさむき日暮かな 鈴木 音之介
○ 久慈郡金砂村
夕まけて厩はくらし春の風 境 勇
○ 行方郡武田村
地をうつつ椿落ちたる風の中 石渡 五十里
○ 北海道函館市
春風や水しつかなる樓の影 武田 美代
○ 同 上磯町
春風や点々とある移民小屋 石渡 石太郎
○ 同
落椿日輪阿寒の嶺に沈む 宇野 狸公之
○ 京 都
掃きやめて尼僧のひろふ椿かな 貝塚 苔人
○ 北相馬郡大野村

春風や素足になじむ日和下駄

○ 北海道上磯町

石渡 星華

草の上に眠りたる子や春の風

○ 旭川衛成病院

石渡 石汀

春風や店の玩具の風ぐるま

○ 猿島郡幸島村

小倉 日雨

苗賣に日のはなやける春の風

○ 那珂郡隣郷村

高部 樂風

古寺やほたりほたりと落椿

○ 稲敷郡金江津村

田仲 浦南草

ゆく水の底に色ある椿かな

○ 行方郡武田村

塙 草風

普請場に春の風ある 鮑屑

○ 同 秋津村

飯島 霞水

黄昏の寺寂として落つばき

○ 鹿島郡中野村

大川 貞

雨歇みて濁れる池や落椿

○ 同 豊郷村

石津 思水

隣る家と往來のみちの落つばき

○ 水戸市袴塚

大高 靜香

青々と春風すさぶ 籬かな

○ 行方郡武田村

鳥次 ゆた香



×川× ×柳×

山中緋郎選

『繭』

空気がけて繭の値安いなり

繭賣つて娘嬉しく帯を買ひ

暴騰の繭に喜ぶ野良歸り

新聞の相場早速繭を賣り

かきとればそばから繭はころけ出し

鼻唄で繭煮る鍋の湯氣を浴び

損得もなく繭賣つてふと淋し

末つ子は繭をねだりて口で挽き

豫想よりいゝ繭の値にほつとする鹿島郡豊郷村

トラツクの繭滿載の空は晴れ

蠶棚のあんな所へ巢を造り

繭代を少し娘に無心され

繭安へ悲觀してゐる顔と顔

繭の値が上り明るい夜の膳

納税に來て繭の値をちと口説き

名古屋市中區

稲敷郡金江津村

東京市神田區

北相馬郡東文間村堀越

青森縣上北郡

稲敷郡浮島村

行方郡手賀村

北海道上磯町

東京市王子區

行方郡武田村

西茨城郡北川根村

北海道旭川市

福島縣飯坂町

長谷川長樂

田仲 笑波

齋藤ふじ若

宵雪

吉田 逸桑

貝田 亂聲

武内 涼風

會根 健而

林 薰風

石渡 星華

村上 亘享

塙 草風

石渡よしを

吉田 笙人

春風や土春昇ぎてゆらぐ橋

○ 同

同人

落椿砂にさゝやくほどの雨

○ 同

佳作

住作

(賞)

北海道上磯町常磐町六三

石渡 石太郎

天霧ふ夜のウインドーの落椿

(評)他に取るべき句がない。この句も多少朱を加へた。これで花飾の飾窓の情景は充分に現はれて居ると思ふ。(選者)

選者 吟

前田 猶春

家たちてにひはりみちの落椿

○

おとなふて春風の戸の伏籠かな

○

次號 課題

題『金魚』『夏木立』一人十句以内

縮切 六月二十日限り

宛名 茨城縣廳内統計協會宛

賞 秀逸三名に粗賞を呈す

繭買ひの股引どつかしみがあ

差引は屑繭だけの愚痴となり

上簇へ嬉しそうなる顔が寄り

繭賣つて酔ふて歸つて濟まな

繭賣つて父晩酌をちとす

繭賣つて下宿へ送る子の學資

桑の肥さと繭の値が氣にか

夜なべした苦勞を笑ふ繭の出

五 客

繭の値の景氣娘も恙なし

繭賣つて娘の縁談の日もさ

繭の値に影響がある下宿の

儲かつた頃を語つて繭を挽

繭賣つて母ひさしの髪を梳

人 (賞)

繭安へあんなに積んで淋しま

春蠶の掃立減す繭相場

繭賣つてまた糧となる貧の

天 (賞)

那珂郡柳河村

木内 紅嵐

日野櫻笑子

飯田 日進

小島大口坊

榎 太刀丸

宇の狸公三

山本 葉光

大高 靜香

水戸市袴塚町

東京市日本橋區

京城府黃金町

東京市日本橋區

青木 斗南

石津 思水

影 微秋

高野 芳水

丸波 非風

北島 仁昭

境 勇

海老原松光

選者吟

藪安の不況村の娘減つてゆき

次號 課題 『講習』一人五句以内

用紙 葉書又は同型のもの

締切 六月二十日

宛名 茨城縣廳内茨城縣統計協會

賞 三才粗賞を呈す

統

計

標

語

統計は沈黙の警鐘なり
統計と時計は正確を貴ぶ
先づ統計次に善政
確かな数字に後悔なし
統計に勝る味方なし
嘘の雄辯に優る沈黙の統計
統計は國政の羅針盤なり
統計は政治の基礎なり
統計の光は正
確の數より發す

寄贈圖書

昭和八年	簡易保險局統計年報	簡易保險局	全	主稅局第六十回統計年報書	大藏省主稅局
全	會社統計表	商工大臣官房統計課	全	朝鮮總督府施政年報	朝鮮總督府
全	長崎縣統計書(第三編)	長崎縣	全	青森縣統計書(第一、二、三、四各編)	青森縣
全	長崎縣勢要覽	全	鐵道統計資料	鐵道省	
全	經理事務年報	逓信省經理局	昭和九年	物價統計表	商工大臣官房統計課
昭和九年	長崎縣米統計	長崎縣	全	兵庫縣統計表	兵庫縣統計協會
昭和八年	産業組合要覽	福島縣	第一卷第一號	人口問題	人口問題研究會
全	樺太廳統計書	樺太廳長官々房	昭和八年	東京府工場要覽	東京府總務部調查課
昭和九年	山形縣蠶桑統計	山形縣統計課	昭和八年	綿織物及絹織物年表	商工大臣官房統計課
昭和八年	千葉縣統計書(第五編)	千葉縣總務部	昭和五年	國勢調查報告(富山縣)	内閣統計局
全	梁和田村勢要覽	梁和田村役場	全	(鹿兒島縣)	全
昭和九年	高知縣養蠶統計	高知縣	昭和九年	兵庫縣統計事務一班	兵庫縣統計課
全	大阪米統計	大阪府總務部統計課	昭和九年	夏秋蠶統計	東京府調查課
昭和五年	國勢調查報告(岡山縣)	内閣統計局	昭和八年	航空統計年報(第四十四回)	逓信省航空局
全	(鳥取縣)	全	昭和八年	東京府統計書	東京府
全	(熊本縣)	全	昭和八年	大日本帝國港灣統計	内務省土木局
全	(廣島縣)	全	昭和九年	メートル法要覽	長崎縣
第四十九號	統計時報	内閣統計局	昭和九年	産米統計	山口縣
昭和九年	福島縣夏秋蠶統計書	福島縣	全	産米統計	全
大原社會問題研究所雜誌		大原社會問題研究所	昭和八年	滋賀縣統計全書	滋賀縣
昭和九年	兵庫縣米統計表	兵庫縣統計課	第四回	學事統計要覽	愛媛縣
昭和七年	文部統計摘要	文部大臣官房文書課	昭和十年	勞働統計實地調査結果の概要	大阪府
昭和八年	大分縣統計書第一、第二、第三編	大分縣	昭和八年	大阪府勢一覽	大阪府
全	三重縣統計書第一編	三重縣	昭和八年	大阪府生產統計の概要	大阪府總務部
三月號	いしずゑ	福岡縣統計協會	昭和八年	大阪府學事統計速報	大阪府總務部
昭和九年	蕪統計表	農林大臣官房統計課	昭和八年	樺太廳治要覽	樺太廳
昭和八年	農事統計表	農林大臣官房統計課			

編輯後記

創刊號に、先づ第一に申上げておいたやうに、私は新聞や雑誌の編輯については、多少の経験を持つものであるが、この「茨城統計」に盛られるところの内容は、今迄の私共が覗いて来た世界とは、丸つきりかけ離れてゐるやうな統計だ。呑み込めないうな、呑み込めないやうな統計だ。

模範町村をお訪ねして、折角立派な材料を興へられても、誌上に現はるゝ訪問記は、屹度、何かしら物足りないに違ひない、座談會においても同様、いろ／＼と皆さんから有益なお話を承つても、屹度肝腎な處を書き洩らしてゐるに違ひない。

さうした御不足御不満に對する皆さんのお叱りは、私充分にお受けして、そして勉強し、そして研究し、ほんたうに爲めになる雑誌にしたいと念じてゐる。

美辭麗句を連ねて、唯徒らに華やかなる雑誌を作らうといふならなんでもない、花も實もある雑誌、物笑ひにならぬ雑誌こそ、作りたいばかりに私は努力する、讀者諸君の御指導御鞭撻を希うてやまない。

訪問記は成るべく毎號續ける考へで、今後皆様にお目にかゝる機會も度々あらうと思はれる、誌上を以て豫めお願いしておきたい——富岡如夢

茨城統計と
廣告の効果

「茨城統計」は縣下三百八十ヶ町村及び各市町村の統計調査員三千九百名は勿論縣下各種団体、會社、工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の効果偉大なるものがあると信じます。

□本誌廣告料金は左の通りです。

特別(一頁(表紙裏表)) 金貳拾圓
 (半頁(同)) 金拾五圓
 普通(一頁) 金拾圓
 (半頁) 金五圓
 (四分ノ一) 金參圓

□同一廣告を引續き二回以上のおときは、一割五分、五回以上のおときは、二割の割引をします

□廣告に寫真挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます

□廣告料は前納に願ひます

茨城縣廳
茨城縣統計協會

昭和十年五月十三日印刷
 昭和十年五月十五日發行
 (隔月一回十五日發行)

水戸市北三ノ丸 一部金拾錢
 茨城縣統計協會内

發行所 編輯人 川崎 末吉
 水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
 印刷所 柴 印刷所

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
 印刷所 柴 印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内
 發行所 茨城縣統計協會